

反貧困ネットワーク2022年度 激動の記録



一般社団法人 反貧困ネットワーク 事務局長 瀬戸 大作

活動① 相談支援事業

新型コロナ災害緊急アクションでは、2020年4月からホームページに相談フォームを設けています。現在いる場所、所持金、携帯電話の有無、生活保護を受けたいか、支援して欲しいことは何か、今後の生活についてなどを書きこんでもらい、メールを返信して頂きます。何故メールなのか。過半数を超える相談者が既に料金滞納で携帯電話が止まっている事、所持金が100円を切り、身動きがとれなくなっているからです。フォームから寄せられるSOS一件一件へ、ご相談者のいる場所まで支援スタッフが駆けつけるという相談体制を現在も継続しています。その後の生活保護申請同行とアパート入居までの支援をおこなっています。所持金が100円しかない。「このままでは死んでしまう。死のうと考えている。最後に連絡したんです。」休む事ができない理由はここにあります



年末年始

反貧困ネットワーク移動相談会



ひといきバス

コロナ禍で収入も住居も失い困窮する方の深刻が更に深まっています。政府の支援策の終了と特例貸付の償還開始、前例がない程の物価の上昇、相変わらず非正規しか雇用がない状況です。

このような止まる事のない貧困格差の定常化、困窮状態にある方の支援ニーズに応じ、年末年始の緊急支援の一環として、移動相談会「ひといきバス」を開催いたします。

2022年12月30日(金)・2023年1月3日(火)

生活

仕事

住まい

医療

家族

債務

生活、医療、家庭、仕事のことなど、困りごとや悩みごとをひとりでかかえていませんか。

「住むところがない」「食べものが買えない」「借金がある」「仕事がない」「家賃が払えなくなっちゃった」

「支援制度を受けたいけどよくわからない」「役所に相談に行ったがきちんと対応してもらえなかった」など…

相談は無料です。ぜひ、相談にいらしてください。

お弁当、ミャンマーふりかけを使ったおにぎり、温かいチャイティーをご用意しています。肌着、くつ下、アウターなどもあります。

12月30日

13:00~15:00

赤羽公園 周辺

赤羽駅[南口]徒歩 5分

16:00~18:00

北千住駅西口

ペDESTリアンデッキ 周辺

19:00~20:30 (終了)

新宿バスタ周辺 バス巡回

1月3日

13:00~15:00

蒲田駅西口 駅前広場

16:00~18:00

新宿区 戸山公園 周辺

高田馬場から徒歩 10分

19:00~20:30 (終了)

秋葉原駅中央改札口

(北側)出口 周辺

バスの詳しい場所は、
Twitter アカウントで
随時お知らせします！
Twitter ID
@anti_poverty_NW



ボランティアスタッフ及び取材など
●問合せ先●
反貧困ネットワーク事務局長
瀬戸 090-1437-3502
info@hanhinkonnetwork.org

【寄付先】ゆうちょ銀行 〇ー九(ゼロイチキユ)支店 当座 0594755

主催団体：一般社団法人反貧困ネットワーク

協力団体：新型コロナ災害緊急アクション/難民移民フェス出張ブース/ソーシャルコミュニティめぐりや

一般社団法人つくりい東京ファンド/コロナ災害対策自治体議員の会



市民のカンパで支えられている 「緊急ささえあい基金」でいのちを繋ぐ

2020年4月～ ささえあい						
収入部門	支出部門					
		件数	宿泊給付	生活給付	交通費	計
ささえあい	直接手渡し給付	1088	7,245,722	15,051,367	271,100	22,568,189
	団体連携手渡し給付	724	5,167,171	15,796,199	22,600	20,985,970
犬猫基金	犬猫基金	34	1,755,500	1,763,917	0	3,519,417
	移住連外国人給付	1903	757,860	53,167,805	10,000	53,935,665
計		3,749	14,926,253	85,779,288	303,700	101,009,241



反-貧困
ANTI-POVERTY CAMPAIGN

**反貧困ネットワーク 新型コロナウイルス
緊急ささえあい基金に
ご協力ください**

雨宮処凛（反貧困ネットワーク世話人）
コロナ不況で仕事を失い、ネットカフェが閉鎖して行き場を失った人たちが所持金も尽きた状態で続々と相談に訪れています。生存を脅かされている人々を支援するため、どうかお力をお貸しください。こんな時だからこそ、「助け合い」を復権させましょう。

以下の内容でお問い合わせがありました。

【タイムスタンプ】

2020/11/14 18:09:44

【メールアドレス】 ****

【お名前(ニックネーム可)】 女性

【電話の状況】

すでに止まっている

【電話番号(電話がある場合は必ずお書き下さい)】

【現在地。いまいらっしゃる最寄りの駅名もしくは住所を記入してください。住所がわからない場合は目印になるものを記入してください。】

東京駅

【生年月日(可能なら)】 1993/03/31

【相談フォーム】新型コロナの影響で、 お困りの方からのご相談を受け付けています

【※ご送信の前にお読みください!】

①本相談フォームよりご相談いただいたあと、私達から(なるべく早く)ご返信差し上げ、スタッフが直接お会いしてより詳しいお話を伺い、対応を一緒に考えていく形が基本となります。

(場所・地域・時間によってはお時間がかかったり、直接お会い出来ない場合もございます。また、ご相談者様のご状況を伺い必要に応じて緊急宿泊費支援をおこなう形となりますので、ご相談の結果必ずしも宿泊費をお渡しする支援にならない場合もありますことをご了承ください)

②もし、今生活にお困りの方が本相談フォームに「平日の17時」までにアクセスされているのであれば、是非「今、すぐに」最寄りの福祉事務所へ出向き、まずは行政へご相談してみることも、合わせてご検討ください。

●都内の福祉事務所リスト

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/smph/seikatsu/shisetsu/fukushi.html>

そこで、もし十分な対応をしてくれない場合は、その対応内容も含めて、本フォームよりご連絡ください。

③本相談フォームから『必ずしもお困りではない方からの「いたづら」目的での送信は、絶対にお止めください』。私達の相談対応リソースにも限りがあり、誰かが虚偽の対応を強い

【現在の所持金（およそで構いません）】

現金1円

【現在の生活拠点（複数の拠点がある場合は当てはまるすべてのものにチェックを入れてください）】

路上・公園・河川敷, 3日前(11日)から宿泊先なしそれまでは簡易ホテル

【相談したいこと（複数の選択ができます。当てはまるもの全てにチェックを入れてください）】

急ぎ宿泊先を確保したい, 生活について相談したい, 仕事について相談したい

【詳細な相談内容を教えてください。】

現在、失業中で自宅もありません(住所は神奈川県)、都内で点々と生活して来ましたが底を尽き寝る場所がありません。今日以降の泊まる場所と社会復帰の相談がしたいです。頼れる人は居ません

2022年度駆けつけ支援報告①

	男性	女性	計	女性比	電話有	電話無	計	電話無比	所持金	100以下	300以内	500以内	1000以内	5000以内	10000以内	100000以上
202204	40	9	49	18.4%	38	11	49	22.4%	3	10	5	5	11	2	13	
202205	48	12	60	20.0%	37	23	60	38.3%	8	16	5	5	8	7	12	
202206	28	22	50	44.0%	37	13	50	26.0%	14	8	1	5	5	6	11	
202207	41	8	49	16.3%	37	12	49	24.5%	11	6	7	6	6	2	11	
202208	34	14	48	29.2%	33	15	48	31.3%	11	3		4	16	1	13	
202209	32	12	44	27.3%	29	15	44	34.1%	12	4	1	2	14	5	7	
202210	42	13	55	23.6%	35	20	55	36.4%	19	2		5	8	10	11	
202211	38	20	58	34.5%	33	25	58	43.1%	12	3	3	8	16	5	11	
202212	50	17	67	25.4%	48	19	67	28.4%	15	8	4	7	10	8	17	
202301	46	13	59	22.0%	39	20	59	33.9%	17	9	3	4	12	4	9	
202302	30	15	45	33.3%	37	8	45	17.8%	13	6	3	5	10	5	4	
202303	42	15	57	26.3%	46	11	57	19.3%	14	2	5	8	10	6	12	
計	1221	338	1559	21.7%	965	594	1559	38.1%	325	249	107	177	302	112	266	
									20.8%	16.0%	6.9%	11.4%	19.4%	7.2%	17.1%	

2022年度駆けつけ支援報告②

	居所															
	あり	追い出し	野宿	ネカフェホテル	友人宅	計	居有比率	生保希望	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
202204	19	2	7	22		50	38.0%	17	8	2	11	21	10	5		
202205	18		18	23	1	60	30.0%	27	5		19	15	13	10	1	1
202206	21	2	15	11	2	51	41.2%	19	3	1	11	11	11	10	2	
202207	16	4	15	11	3	49	32.7%	21	5	2	10	12	12	9	1	1
202208	13	7	11	17		48	27.1%	20	4		19	12	8	4		
202209	15	1	7	20		43	34.9%	22	5	2	11	11	12	7		
202210	20	4	16	10	5	55	36.4%	15	2	2	11	14	15	7		5
202211	16	8	17	11	5	57	28.1%	22	7		11	14	20	10		
202212	20	3	26	17	1	67	29.9%	23	7	1	12	20	14	7	9	2
202301	17	4	22	14	2	59	28.8%	18	4	1	13	25	8	3	4	1
202302	15	2	14	11	3	45	33.3%	12	3	1	10	17	10	5		1
202303	18	3	14	19	3	57	31.6%	11	3	1	16	14	10	11	2	3
計	410	68	390	610	59	1328	72.3%	507	135	18	453	437	320	160	35	10
	30.9%	4.4%	25.0%	39.1%	3.8%			32.5%	8.7%	1.2%	29.1%	28.0%	20.5%	10.3%	2.2%	0.6%

駆けつけ支援報告 年度推移

			202006	202007	202008	202009	202010	202011	202012	202101	202102	202103	計
男性			15	14	18	27	18	16	30	22	49	48	257
女性			5	5	3	4	8	6	3	8	2	8	52
計			20	19	21	31	26	22	33	30	51	56	309
女性比			25.0%	26.3%	14.3%	12.9%	30.8%	27.3%	9.1%	26.7%	3.9%	14.3%	16.8%
	202104	202105	202106	202107	202108	202109	202110	202111	202112	202201	202202	202203	計
男性	67	49	36	35	56	45	52	29	30	40	23	31	493
女性	10	10	7	11	12	13	7	9	13	6	12	6	116
計	77	59	43	46	68	58	59	38	43	46	35	37	609
女性比	13.0%	16.9%	16.3%	23.9%	17.6%	22.4%	11.9%	23.7%	30.2%	13.0%	34.3%	16.2%	19.0%
	202204	202205	202206	202207	202208	202209	202210	202211	202212	202301	202302	202303	計
男性	40	48	28	41	34	32	42	38	50	46	29	42	470
女性	9	12	22	8	14	12	13	20	17	13	14	15	169
計	49	60	50	49	48	44	55	58	67	59	43	57	639
女性比	18.4%	20.0%	44.0%	16.3%	29.2%	27.3%	23.6%	34.5%	25.4%	22.0%	32.6%	26.3%	26.4%

最近の相談傾向

【最近の傾向】

- ①非正規・派遣で寮に住みこむ。雇止めにあい住まいを失う。雇い止めで家賃未納で強制退去
- ②当初から非正規で初期費用が捻出できず、ネットカフェや脱法ハウスで居住していたが野宿へ 女性野宿者の急増
- ③発達障害 知的障害、精神的困難を抱えた方々が多い。最近では80%
- ④生活保護を利用していたが施設収容され失踪した経験がある方々が多い。
- ⑤大半が親も貧困、ひとり親に育てられていたり、一家離散と虐待も多い。家出

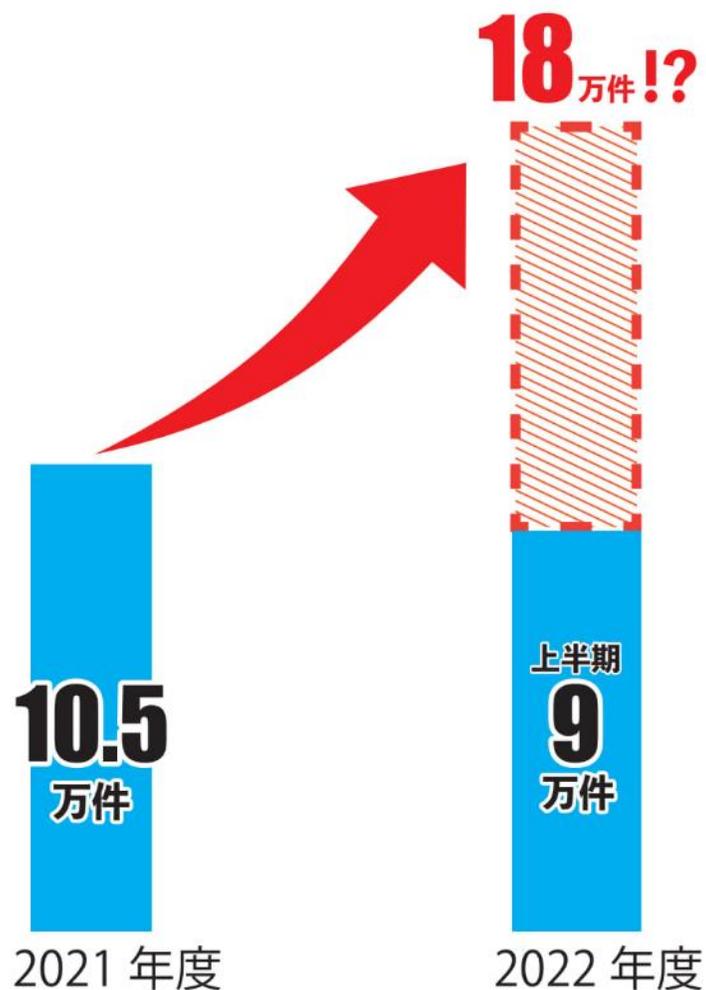
加えて最近、急増しているのは、次の収入(給料・年金・生活保護費など)が入金されるまで所持金が尽きてしまう相談、税金滞納による給料全額差し押さえなど、生活保護の対象外、福祉事務所で、これ以上の貸付は厳しい。

新型コロナウイルスの影響で生活が苦しくなり、国から無利子でお金を借りたものの、返済できない人が相次いでいる。国の貸し付け総額は1・4兆円超、1月から返済が始まっているが、「返せない」と免除を申請したケースが既に35%に上る。お金を借りても困窮から抜け出せない人がそれだけいるということだ。政府がその場しのぎで貸し付けを続けたことが裏目に出ていて、支援が追い付いてない実態がある。

・「生活保護費が尽きてしまって食べるものがない」「お金が尽きて次の給料日まで飲まず食わず」「ライフラインが止められた」最近の相談事例の多くがこのようなパターンです。終わることのない値上げ、容赦ない家賃滞納による追い出しが続いています。年齢層が20代～30代から全世代に広がっている。

・女性の相談事例が困難を極めている。精神障害を抱えている方が多い。虐待被害も多い。

給水停止件数



・11月4日に行われた東京都議会公営企業会計の全局質疑で、給水停止が急増している問題について、日本共産党の和泉なおみ都議が、知事と水道局長に対して質問しました。これまで、検針員さんたちが訪問を行なって、分割での支払いや福祉につなぐことで、給水停止を回避する丁寧な対応を行なってきたにも関わらず、その業務を今年度からなくしてしまっただけで、給水停止の急増に大きく影響しています。事務事業質疑で明らかになりましたが、昨年度まで行われていた訪問による催告では、料金未納になったうちの86%は回収し、つまりその分の給水停止を回避していました。しかし、郵送による催告に変えてからの回収率は33%と格段に落ち、その分、訪問による様子の確認もできないまま、給水停止が増えている

1. 水道料金の滞納者に対し、安易に給水を停止しないでください。
2. 水道料金の滞納が発生した際、給水停止の決定を、誰が、どのように行っているのか開示してください。
3. 水道料金の滞納者が、必要な支援に繋がるような体制の構築や制度の利用案内などを最優先してください。家計急変世帯の給付金案内など、滞納者に対し、制度利用の案内や本人が居住する区の保護課など関係機関との情報共有を行い、必要な支援に確実に繋げてください。

国民総貧困化社会に突き進む日本

20代～30代が60%を超えるが、「生きていくなかで良い事なんか一度もなかった。」うつ病や精神疾患を抱えている相談者が最近70%を超えている。子どもの時から親に責められていた。一度も正規の仕事に就けなかった。正規の仕事に就いても競争やブラック労働で追い込まれ、精神的にも追い込まれた。面談したり伴走を続けるなかで感じることは、これからの人生に希望を持っていないこと、いままで人を信用しても裏切られる事ばかり、ネットの中だけが逃避できる居場所、社会も政治にも期待なんかしていない。「やり直しなんかできない社会」「**僕たちの将来は終わることのない貧困と絶望**」こんな底が抜けた社会にしてしまった政治の責任は重い。取り返しがつかない状況にまで来ている。これが現場の実感だ。

年齢別	貯蓄ゼロ世帯の割合	
	2012年 民主党政権	2017年 自民政権
20歳代	38.9%	61.0%
30歳代	31.6%	40.4%
40歳代	34.4%	45.9%
50歳代	32.4%	43.0%
60歳代	26.7%	37.3%



2015年に期間従業員で来た。極度の人間不信・被害妄想と、自分が臆病すぎることによって、仕事が続かず、現在はネットカフェまたは路上で寝る生活が続いている。人を殺して捕まりたい、そしてさ死処分されたい。加藤智大のようになりたい、俺は人間のクズと連発)

行政に相談しても追い返された 相談先次第で地獄をみる。

- ①生活が苦しいので市役所に生活の相談に行ったところ、「オマエのようなバカ女に渡す金はない！女なんだから、体を売れば良いだろう！」などと怒鳴り散らされ、全く話を聞いてもらえなかった。
- ②会社を雇止めされて就職活動も上手くいかず、居所も失った。食べる物にも困り、福祉事務所に相談したが、「あなたは働く能力があるのだから保護は受けられません」
- ③消費者金融から借金があり支払いも滞納状態、福祉事務所に相談したが、「借金がある場合は保護を受けられない」
- ④「車を持ったままでは保護は受けられない」通院にどうしても必要
- ⑤「住所のない人は保護の対象にならない」といわれた。
- ⑥「居所がない人は無料低額宿泊所に入所しないと保護は受けられない」
- ⑦「私たちの福祉事務所では今日、生活保護申請を受理しても、今日からの居所も貸付金も準備できない」
- ⑧申請受理されても保護決定まで30日近く経過しても連絡がこない。水道・ガス・電気も止められ、反貧困ネットワークに連絡して緊急支援でいのちを繋いだ。

無料低額宿泊所に入所する事を約束しないと生活保護申請を受理できない。

- 多くの福祉事務所において、無料低額宿泊所、自立支援施設入所を生保申請受理の条件とされ、路上に居ただけで、「生活保護申請者に対する疑い」「偏見」が差別的な運用につながりアパート転宅が阻まれる状況が頻発している
- 失踪者からの告発の声が相次いでいる。無低では入所から暫くは集団部屋、更生施設でも懲罰的な相部屋生活を強いられている事例が見られる。
- 問題なのは、無低の入所を勧める側の福祉事務所が、無低の集団生活の規則を十分に把握していない。①施設料が10万円超え、②食事は17時から18時まで食べなくても徴収、③風呂は17時から20時まで、④門限21時まで、自由を剥奪された規則、ケースワーカーは一度も無低施設を見学した事もない。各区市の福祉事務所の間では受けられる支援の格差が存在すること、東京都が提供している協議済み
- ホテルの部屋を提供しているのは、実際には都内の3分の1ほどしかない。都として支援の枠組みを用意していても、実際には使うことなく、無料低額宿泊所や自立支援施設しか選択肢を示さない違法な対応を行う自治体が大半だ。

この無料低額宿泊所の利用料金試算

・生活保護費総額	110590円	*年齢による
・家賃	30800円	
・食費	45900円	
・日用品費	2100円	
・水道光熱費	7200円	
・生活相談費	16500円	
	料金総額	102500円
・本人が使える額	8090円	*1日270円



写真提供 探偵FILE

「住宅穴埋め屋対策会議」

コロナ禍で仕事や住まいを失い、生活に困窮する人たちが増える中、失業者や高齢者、障害者ら、住まいの確保が難しい生活困窮者らをターゲットに、住まい確保や就労支援などを謳い文句に勧誘し、生活保護を利用して、都心から離れた郊外物件などに入居させるなどして利益を得て、生活困窮者の生活を一層不安定化させるという新たな貧困ビジネスの被害が増えています。

「TENOHASI」や「反貧困ネットワーク」などには21年以降、社団法人が紹介した物件に入居した20～70代の困窮者から、約30件の相談が寄せられている。

新たな貧困ビジネス」として「コロナ禍でこうしたビジネスモデルが広がる可能性が十分にある」と語った。厚生労働省にも、実態調査や相談体制の整備などを申し入れました。都内では居所がない方が生活保護を申請した場合、以前のようにビジネスホテルが提供されず。個室の無料低額宿泊所も殆ど空きがないという。「都内には相部屋の無低しかないんです」、相談者の大半は集団生活が苦手なのは当たり前！悪質貧困ビジネスの入り込む余地を与えている。公営住宅や空き家など借上げ住宅の確保などを公が責任を持って早急にすすめてほしい。



「住まいを紹介するよ」「仕事探しも手伝うよ」と誘われたが……

郊外の古い物件に連れてこられ
引っ越さない

保証費からサービス料を
差し引かれている

弁護士らがお力になります！ お気軽にご相談ください！

「住宅穴埋め屋」被害に
あわれた方の **臨時相談会**

主催：住宅穴埋め屋対策会議

ウェブサイトからご相談
2/18(土)～2/28(火)
<https://hanhinkonnetwork.org/archives/1435>

専用電話からご相談
2/25(土)10:00-16:00
0800-808-0907 / 070-8961-5006

借金 住まい 生活保護 労働 学費 など...

いのちと暮らしを守る なんでも相談会

無料・全国いっせい \ 電話とリアルの同時開催

弁護士、司法書士、社会福祉士、労働の専門家などが
無料でご相談に対応します!

開催日 2023年 4月30日(日)

📞 お電話でご相談 📞

(フリーダイヤル) ひんこんなくそう
0120-157930 10:00~18:00
地域によって変更あり

携帯電話が停止中でも、インターネット(FreeWi-Fi)から通話相談ができます。詳しくはウェブサイトをご覧ください↑↑↑



📍 リアルでご相談 📍

東京会場はこちら!

**お弁当と
温かいチャイ
あります!**
(なくなり次第終了)
 ※食材などの配布は
 予定していません

じかん 時間 **12時~17時**
とうきょう でゆー
 ばしょ 場所 **東京DEW**
(東京都新宿区西早稲田2-4-7)

- 東西線 早稲田駅 徒歩10分
- 都バス 西早稲田 停留所 徒歩2分



反・貧困 ANTI-POVERTY CAMPAIGN 東京会場主催「一般社団法人反貧困ネットワーク」

主催「いのちと暮らしを守る なんでも相談会実行委員会」 ウェブサイト: <https://inoti-kurasi-soudan.jimdofree.com/>
 ●小久保 哲郎(あかり法律事務所 ☎06-6363-3310) ●猪股 正(埼玉法律事務所 ☎048-862-0355)

シェルター事業なしに困窮者支援事業は成立しない。

居所がない相談者の生活保護申請受理後のアパート入居までの行程は難しい場合が多い状況です。

- ①福祉事務所から「無料低額宿泊所」など入所を強要される場合の受け入れ
- ②精神疾患など課題を抱えている相談者のアパート入居までの受け入れ
- ③犬猫などペットと暮らす住居喪失者のアパート入居までの受け入れ
- ④住居を喪失した仮放免状態の外国人の受け入れ（家賃はもらえない）
- ⑤家族での分断、虐待などを理由にした「家出」住居を強制退去させられた相談者の受け入れ

反貧困ネットワークでシェルターを運営し、それを使ってのアパート取得までの継続支援を実施しています。現在25部屋の個室アパート形式のシェルターを運営しています。（現在、13世帯が外国人、11世帯が女性）



反貧困犬猫部

「新型コロナ災害緊急アクション」に、「犬とともにアパートを追い出された」という女性が相談メールをくれました。犬がいるとビジネスホテルやネットカフェには宿泊できません。その日は野宿となりましたが、その翌日から、様々な方の奮闘で女性と犬が安心して宿泊できる場所を確保できました。一方、彼女は生活保護の相談に行った際、「犬を処分しろ」と言われたそうですが、生活保護はペットがいても利用することができます。ペットを連れて住まいを失った人からの相談はこの女性からだけでなく、他にも来ています。反貧困ネットワークのシェルターではペットも受け入れています。最大時で犬3匹、ネコ3匹、鳩1匹、チャボ1匹を受け入れました。

小さな命を守るため
お力をお貸しください



「反貧困犬猫部」を立ち上げます

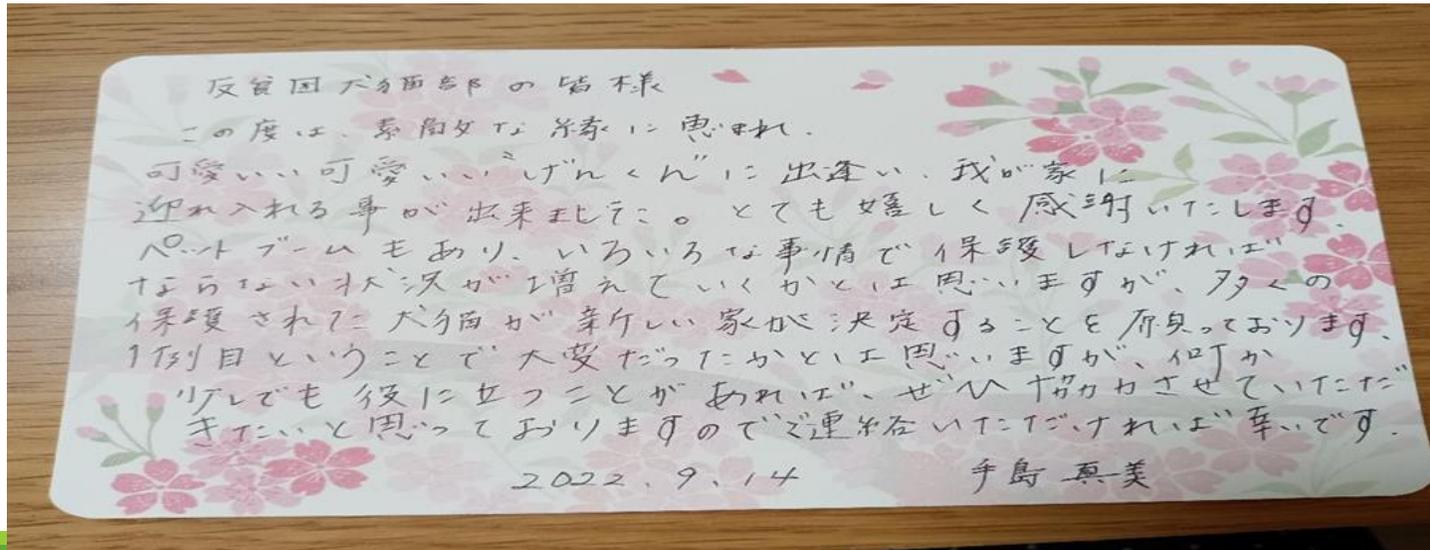
ペットとともに路頭に迷うケースが急増！



*都内の福祉事務所から緊急依頼を受けたボーダーコリーとミニチュアシュナウザーを反貧困ネットワークで預かっています。飼い主が倒れていたマンションの部屋に駆けつけて、ドアを開けたところ、二匹とも静かに部屋のなかにいました。ただエサも水も空になっていた事、窓が少し空いていたものの30度を超える室内で少しでも遅れていたら最悪の事態となる所でした。現在でも飼い主さんは、重篤な病気で現在も入院中の飼い主さんより、健康上の理由と住まい喪失のため、今後、二匹を引き取れるめどが立たないため、譲渡をお願いしたいと連絡がありました。

ボーダーコリーのGくんは、現在、里親候補さん宅で正式に決まりました。

トライアル中で、新しい環境に慣れるために頑張っています。ミニチュア・シュナウザーのHちゃんは、保護してから皮膚疾患が見つかり治療中でしたが、区議の友人が里親に応募頂き9月8日からトライアルをしていましたが、先日、里親候補さんから、正式に里親になりたいと連絡が入りました。



政策提言活動

生きさせろ！

コロナからもうすぐ3年
出口の見えない困窮者支援

10/20
院内集会

貧困問題の抜本的解決を求める 院内集会 & 対話集会

「生きていくなかで良い事なんか一度もなかった」…いま、新型コロナ災害緊急アクションや反貧困ネットワークで支援を行っている相談者は、20～30代が60%を占めます。また、うつ病など心の病を抱えている相談者が70%を超えています。

子どものころから親に責められていた…正規の仕事に一度たりとも就けなかった…ブラック労働で肉体的にも精神的にも追い込まれた…ネットの中だけが逃避できる居場所…これからの人生に希望が持てない…やり直しができない…こんな底が抜けた社会にしてしまった政治の責任は重い。

10月3日に国会が召集されました。コロナが収束すれば暮らしの厳しさは解決に向かう訳ではありません。国葬、軍備増強に原発再稼働…こうしたものに税金を投入している場合ではありません。「食べられない」「家賃が払えない」「希望もないのでもう死にたい」…政治は責任を果たしてほしいと思います。

こうした状況で、支援現場から政策課題を明らかにし、提言を行います。各政党は、選挙公約を実現する事に全力を挙げる事を約束して欲しいと思います。省庁は当事者や市民の声を聞いて政策に反映してほしいと思います。どなたでもご参加いただけます。ぜひご参加ください。

10月20日[木]

15:00～17:30

衆議院第一議員会館大会議室

(千代田区永田町2丁目2-1)

一地下鉄「国会議事堂前」1番出口から徒歩3分

一地下鉄「永田町」1番出口から徒歩5分

一地下鉄「溜池山王」5番出口から徒歩8分

事前申込み不要



YouTube 中継のリンクはこちら



【主催】一般社団法人反貧困ネットワーク／コロナ災害を乗り越えるいのちと暮らしを守る何でも電話相談会
【協力】新型コロナ災害緊急アクション／移住者と連帯する全国ネットワーク貧困対策プロジェクトチーム

プログラム

- 宇都宮健児（反貧困ネットワーク理事長）
開会・趣旨説明
- 瀬戸大作（反貧困ネットワーク事務局長）
支援現場からの報告と提言
- 原文次郎（反貧困ネットワーク外国人支援担当）
追い詰められる在留資格のない外国人
- 猪股正
（コロナ災害を乗り越えるいのちと暮らしを守る何でも電話相談会）
電話相談会からの提言
- 雨宮処凛（反貧困ネットワーク世話人）
支援現場から見た女性の貧困
- 宇都宮健児（反貧困ネットワーク理事長）
総合政策提言
- 国会議員より挨拶と各政党の政策
- 省庁との話し合い

私たちの支援現場の相談内容が更に広がり深刻になっている、貸付金を返済できない。もう家賃が払えない。今日の早朝も相談メールにこう書いてあった。「もう首を吊るしかない」生活保護と破産処理の組み合わせで相談体制の強化が求められている。生活保護の制度改善も求められている、不動産や自動車、生命保険など資産調査を緩和して生活扶助費だけでも利用できるように、物価上昇のなか、生活保護費を引き下げるのではなく引き上げること、早急に家賃補助制度や公営住宅に居住貧困に追い込まれている方が入居できるように、生存権が奪われている仮放免などの外国籍の方の生活保障、せめて医療費支給がないと死んでしまう、もう生きられない。



「生活困窮者の東京都支援策強化についての緊急要請」都庁交渉

●要請項目

水道料金の滞納者に対し、安易に給水を停止しないでください。

●居所を喪失した方が生活保護を申請した場合、無料低額宿泊所や施設入所を強要しないでください。以前は認められていた当面のホテル利用を原則として認めない運用に変わったことに対し運用を戻すこと

報道関係者さま取材のお願い

「生活困窮者の
東京都支援策強化に
ついての緊急要請」

日時：12月2日(金)15時より

場所：東京都議会議事堂4階第13委員会室



難民・移民支援事業

「ささえあい基金」の多くが、在留資格にかかわらず生活に困窮している移民・難民などの外国人給付となっています。現在の日本では、在留資格が無い、あるいは短期のため、住民基本台帳に載らないことから公的支援の対象外とされた外国人の方が、働くことも許されず、医療を受ける事も容易ではない環境に置かれています。

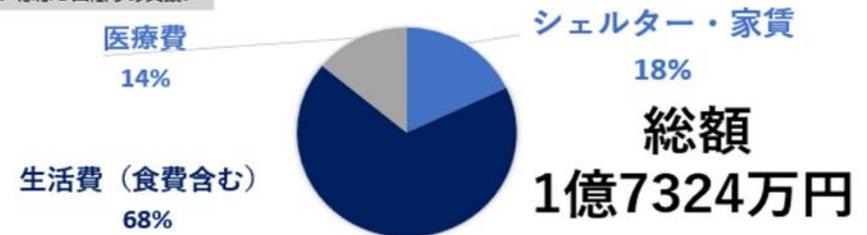
この状況を見過ごすことは出来ないため、私たちは「生活支援」および「居住支援」「入管同行」など、日本に住む外国人を支えています。



民間による支援だけが命の綱である1万人以上
(のべ) を2年半にわたって支援

ただし、この金額では、最低限の生活保障にもならない。家賃を継続して払うことも、病院に通院することもできない。ほぼ1回限りの支援。

支援金使途内訳 (2020.4-2022.9)



誰ひとりとして取り残さない！

国籍に関わらず！

在留資格に関わらず！

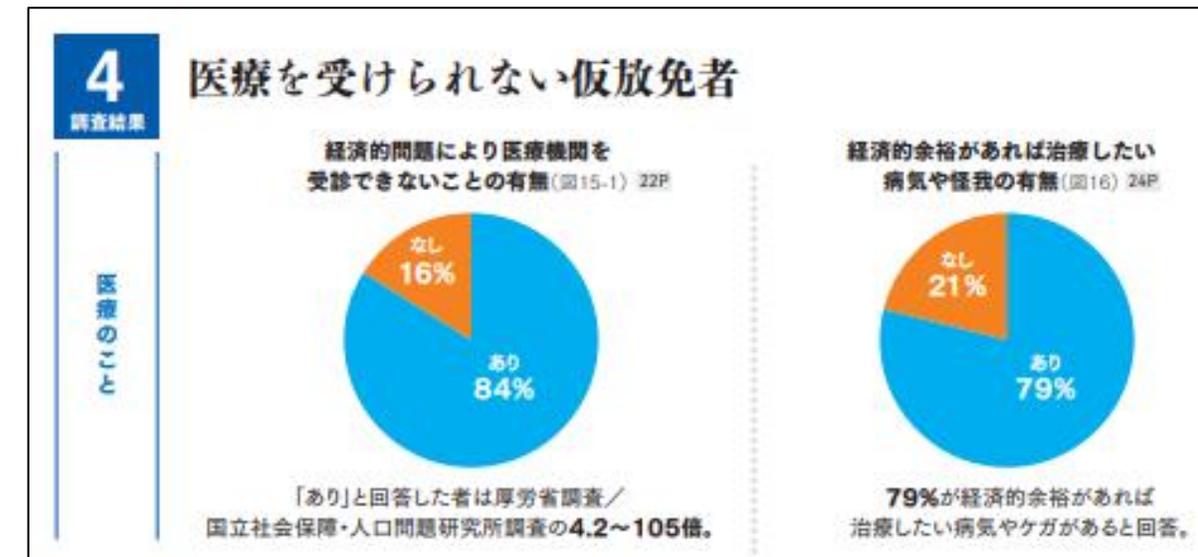
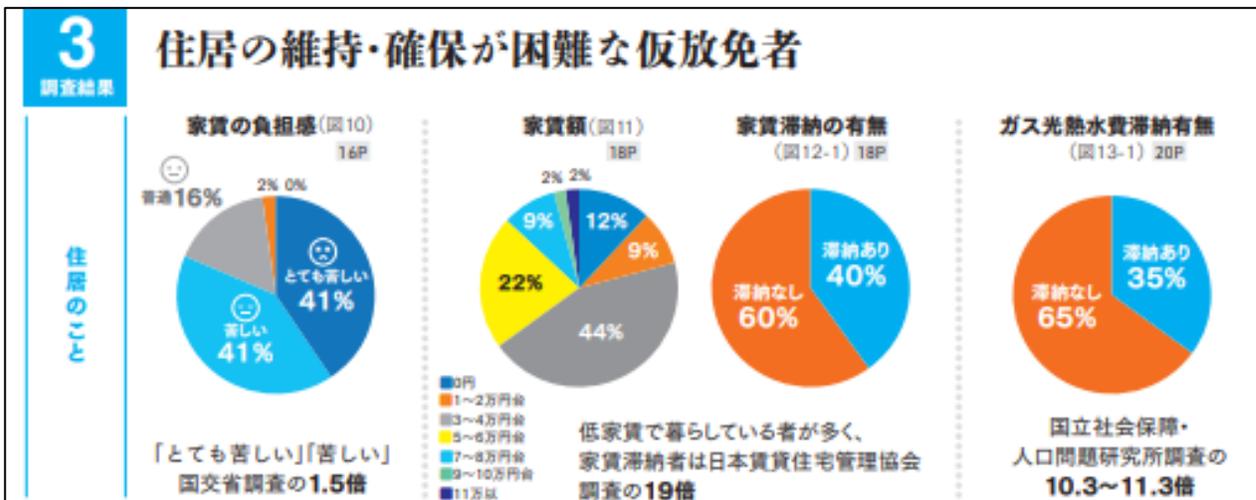
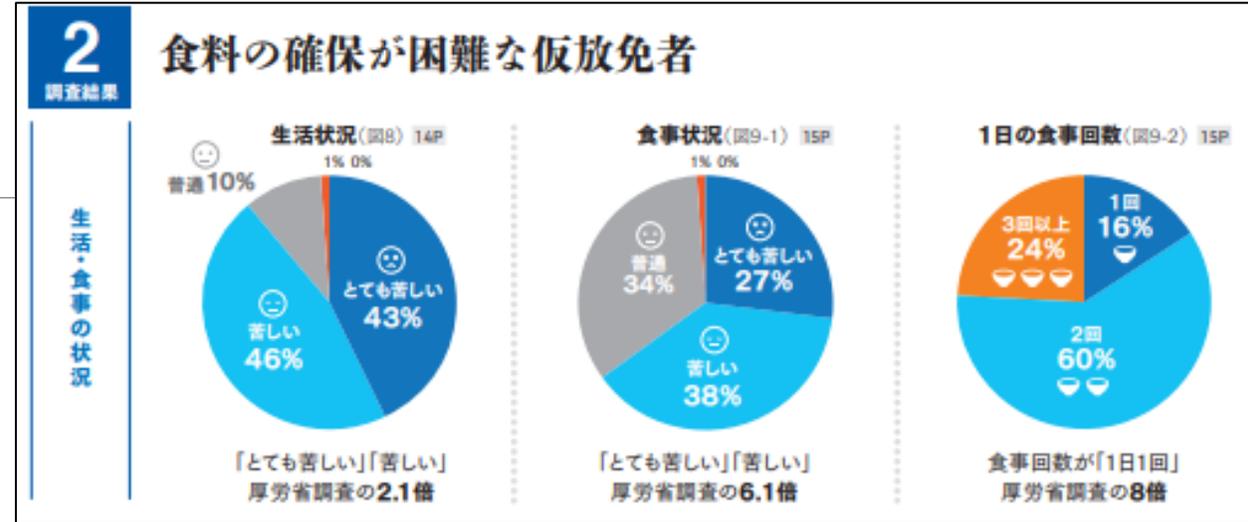
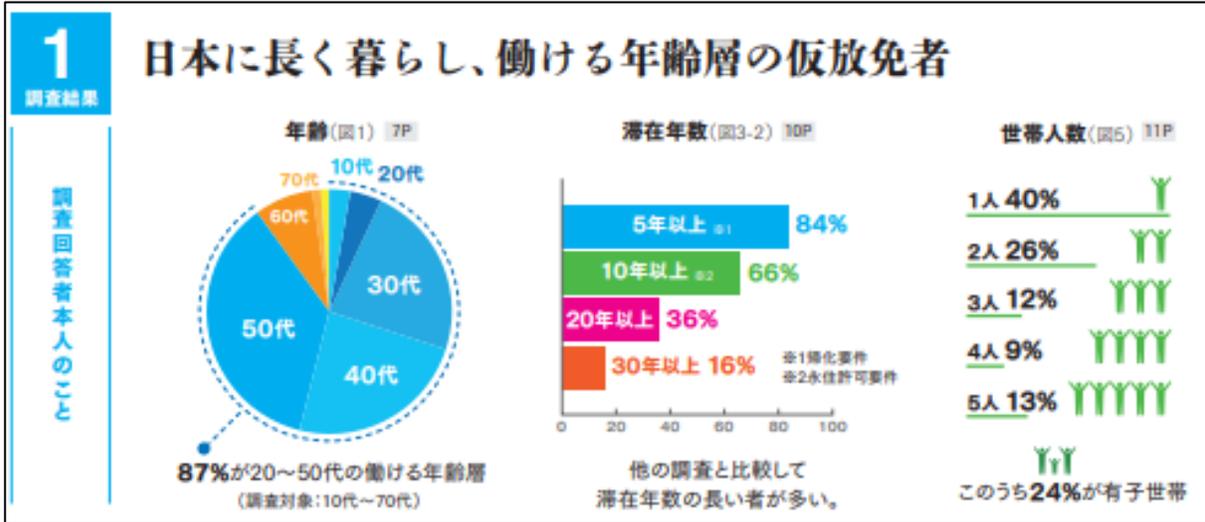


日本人でも、ナニジンでも、

ここ(日本)に生きている人として、貧困状態に置かないことを目指す

■ 仮放免者生活実態調査

出所:北関東医療相談会 (2022) より転載



■ 仮放免者の生活と命を存続させるために必要なこと

出所:北関東医療相談会 (2022) より転載

提言1 就労を認めること

仮放免者が、食事・家賃・医療の確保、社会生活を営むことが困難な理由は、就労ができず収入を得ることができないため。

就労許可を出すことが仮放免者の命と生活を維持するための最も効果的かつ合理的な手段。

提言2 国民健康保険など医療保険の加入を認めること

仮放免者の多くが医療を受けられない原因は、上記①に加えて、仮放免者は国民健康保険など医療保険に加入できず、全額自己負担の医療費を支払わなければならないこと。

仮放免者は、他の被保険者と同様に保険料を納め、納められない場合は減免措置が行われるべき。

提言3 無料低額診療事業を行う医療機関への支援・未払補填事業の整備拡充を行うこと

仮放免者を受け入れている医療機関があるが、そこで生じた医療費は原則医療機関負担となり、医療機関の経営に影響を及ぼす可能性がある。

これらの対応は、仮放免者の命と生活を維持するためだけでなく、医療機関の経営を維持するためにも必用。

提言4 生活保護法を適用すること

国は、生活に困窮し、命や生活の危機に瀕している仮放免者にも「最後のセーフティネット」として生活保護法を適用すべき。

- ・いどこから支援してもらっている。でも、いつまでもこの状況が続けていくことは恥ずかしいこと。まだ私は働き者です。自分の力で生きていきたい。 (40代男性)
- ・他人に頼るより自分で仕事したい。だから難民許可いただけるのが私の希望です。(40代男性)
- ・ずっと他人に頼るのではなく、自立して自分の力で生活したい。 (50代男性)
- ・政府が私たちが自由に動けるようにしてほしいし、いくらかでも働ける時間の許可もしてほしい。そうすれば、自分たちのことは自分たちで世話できるようになる。(50代男性)
- ・自分のことをきちっと世話できるようにしたい。そうすれば、もし私が自国に帰ることになったときには他の人たちをトレーニングできる。(30代男性)
- ・若いのに何も役に立たず、精神的に苦しくて、仕事も禁止され、生活はととても大変です(30代男性)。
- ・日本に住むことが許されるなら一生懸命自立して自分の生活を支えたい。家族をいつか持ちたい。子どもも欲しい。(50代男性)
- ・この国の役に立ちたい。少しでも力になりたい。 (40代男性)

働くと捕まる

働かないと「生きていけない」

仮放免という「ルール」
人生を破綻させる「ルール」

入管法改定案反対「全国で」 反貧困ネットが声明



日本人、外国人を問わず困窮者支援を続けている「反貧困ネットワーク」(東京)などは26日、国会内で記者会見し、難民申請を重ねる人の強制送還を進める入管難民法改定案を再提出しないよう岸田文雄首相に求める共同声明を発表した。声明には北海道から関西地方まで89の支援団体や人権団体などが賛同。今回の共同声明は、日常的に公的支援から排除されてきた外国人支援をおこなっている困窮者支援団体を中心に、難民移民支援団体・平和・人権団体にも広く呼びかけた。

緊急院内集会「人の命を危うくする、入管法改悪はもうやめてください！」3月15日（水）



今日は外国人担当の原さん、先月に就労可能となったミヨーチョーチョーさんと一緒に登壇しました。ミヨーさんは反貧困ネットワークの職員に採用、これからは働く仲間です。ミヨーさんは昨日も既に日本国籍の困窮状態にある仲間が住むシェルターに一軒一軒訪問して声かけしていた。「助けられたから今度は助ける事もやりたい」難民移民雑技団のコーディネーターとしても活躍してもらいます。

●「支援者も一緒になって、当事者と闘っていく。制約されている状況の中でも、ともに時間を過ごす、少しでも楽しい時間も作っていきたい。シェルターの仲間が強制送還されるようなことがあってはならない。共助ではなく、戦うことで権利を勝ちとっていきたい。」反貧困ネットワークの活動理念を宣言させてもらった。

共に支えあう連帯事業

11月23日(水) 第二回「難民・移民フェス」

昨日の快晴から一転、終日雨天予報が見事に的中、それでも実行委員会ひとりひとりの想いは雨天決行！在留資格も与えられず、働くことも許されず、医療にもかかれない仮放免状態が続く。いつもは沈みがちの表情ばかりだが、みんなが笑顔で嬉しそうにしていた。



東京都練馬区の平成つつじ公園で開催された「第1回難民・移民フェス」(2022年6月4日)は約800人が来場し、大成功をおさめました。その日にいただいた「この国に暮らす難民・移民のことをもっと知りたい」「自分たちにも何かできることはないでしょうか?」との声に背中を押され、「出張編」を企画しました。ご要望に応じてカスタマイズした「小さなチャリティフェス」を、あなたの地域のお祭り・イベント・学園祭などにぜひ呼んでください!

ご希望の方は以下のお申し込み先 URL にアクセスしてご連絡ください。経費や注意事項など詳細はおってご相談させていただきます。



【お申し込み先】
難民・移民フェス実行委員会
アクセス先 URL: <https://bit.ly/3p0jy9y>
(※左のQRコードからもアクセス出来ます)

隣で生きる人と
もっと知り合う
難民・移民フェス出張編!!

イラスト ©金井典紀



難民移民フェスでは、大きなイベント開催だけでなく、「お茶アクション」や様々な地域のイベントや居場所に出張して、難民移民の皆さんの「巧みな技」を披露できる場づくりを提供しています。目標は、「支援する人とされる人が混じり合う。共に助けあい共に生きる」就労禁止状態にあるが、可能な限りの活動の場をつくり続けます。



REFUGEES
難民歓迎
TO JAPAN
WELCOME

難民支援BAR 2023 3/19
杉並区高円寺北3-4-12 なんとかBAR



仮放免高校生奨学金 プロジェクト

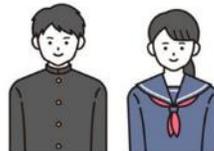
—私たちはあなたを見捨てない—

◆募集期間◆

2022年11月10日(木)～2023年1月6日(金)

◇主催◇

一般社団法人反貧困ネットワーク
NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク
貧困対策プロジェクト



反貧困ネットワークと移住者と連帯する全国ネットワーク貧困対策PTは、「仮放免高校生奨学金プロジェクト—私たちはあなたを見捨てない」を開始します。

・仮放免の子どもたちは、親が働くことを禁止されているため、極度の貧困状況を生きています。義務教育期間中は、給食や体操着などに対して就学援助を受けられますが、高校からは就学支援金の対象にはなりません。そのために進学をあきらめたり、中退を余儀なくされる子どもが多くいます。

・さらに入管は、「日本にいてはいけないのだから、勉強してもしょうがない」と、やる気をくじいて追い返そうとします。しかし、出身国に帰れるならとつとつにそうしており、日本でしか生きられない高校生の将来を切り開くために何かできないか。このプロジェクトは、そうした思いから始まりました。自分は存在してはいけない、と日々思わされるつらさを多くの人に理解してもらい、仮放免高校生とその家族の在留資格正規化につなげるキャンペーンの一環として、奨学金を出します。

・仮放免高校生奨学金プロジェクトは、こうした高校生に、月1万円の奨学金をだすことで、かれらを市民社会は見捨てていないというメッセージを伝えます。月1万円は、公立高校の1か月の授業料であり、日本人なら免除になりますが、仮放免高校生は支払いを求められ、親も就労できない現状では重く肩にのしかかっています。



貧困ジャーナリズム大賞授章式&シンポジウム

大賞は「ヤングケアラー介護する子どもたち」(毎日新聞取材班)、ジャーナリズム賞は「ルポ・収容所列島」(東洋経済調査報道部)、「家事労働者の過労死裁判を巡る一連の報道」「生活保護の扶養照会についての自治体間格差報道」(東京新聞)、「妻はサバイバー」、「マイホーム山谷」などの9件、特別賞は映画「マイスマールランド」(川和田恵真)「コークスが燃えている」(櫻木みわ)などの4件が受賞されました。深刻化していく格差と貧困、孤立化の実相を伝えた47報道・作品の中から、選考委員会が読み込み、議論し、14報道・作品を選びました。



「相談支援員基礎研修」も開催しているんです。

反貧困ネットワークでは、この3年間、支援スタッフは日夜問わず支援に追われてきましたが、日を追うごとに複雑で困難なケースが増え、スタッフにも疲れが溜まってきています。精神疾患、DV被害者や自殺念慮などを抱えている相談者の対応力を強めるための研修を定期的に行っています。何よりも良かったことは、反貧困ネットワークを構成するみんなと、受講してグループワークで対話できた共通の時間が持てたこと、誰かが「こうあるべき」と断定するのではなく、チームや仲間の想いを知り、知恵をだしあうことの大切さです。



反貧困ネットワークは8月より西早稲田の東京DEWに新事務所を移転しました。ビル丸ごと社会的企業や協同組合が入居しています。日常的就労支援、フードパントリーや在留外国人が主宰するCAFÉなど開催しています。ぜひ遊びにきてください。



〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2丁目4番7号 地下
反貧困ネットワークサポートセンター
東西線早稲田駅から徒歩10分 JR高田馬場駅から早稲田
大学正門前行バス乗車 西早稲田停留所 徒歩1分
090-7835-4477 月・水・金:12:00~18:00

しんじゆくフードパントリー 開催!

た くば
食べものを配ります

12/24(土)
13時~15時



12月24日(土)に東京DEWにて「しんじゆくフードパントリー」を開催します。日持ちのする食品を中心に配ります。当日受け取られる方の人数を把握し、全員にお渡しできるようにするため、下記のGoogleフォームかQRコードから申し込んで下さい。申込締切日は12月20日(火)です。

【実施日時】12月24日(土) 13時~15時
【場所】東京DEW(新宿区西早稲田2-4-7)
【申込URL】<https://forms.gle/2gwKLpDmRMTwfmV6>

前回と時間帯が
違います!!

主催団体: ワーカーズコープセンター事業団東京中央事業本部
認定NPO法人シャプランール=市民による海外協力の会
一般社団法人反貧困ネットワーク



★フードパントリーとは、誰もが食に困ったときに無償で食の支援が受けられる活動です★
Googleフォームでのお申し込みが難しい方は、お電話やメールでお申し込みください。
よいごとステーション TEL:03-5937-4501 メール:goodjob@roukyou.gr.jp

2023年度 やりたいこと

反貧困ネットワークではこの間、年末年始移動相談会を開催しました。放免状態におかれた友人が提供するチャイを提供した。難民移民フェスの雑技団チームと一緒に各地域でのイベントや夜市、居酒屋1日店長に出かけていき、仮放免状態の皆さんが作った料理やアクセサリーを代行販売してきたのです。「支援する側とされる側の壁をぶっ壊して、ごちゃ混ぜになる」

公園や駅前に移動キッチンカーやリヤカー（移動フードパントリーや移動図書館、何でもいい）を繰り出して、暖かくなったら、シートやござを敷いて、寝そべったりしながら楽しんで、ごちゃ混ぜになる



Protect Refugees

入管法
改悪
反対

